

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第4回 所沢市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和5年11月28日(火) 午後6時から午後7時15分まで
開 催 場 所	市役所高層棟4階 401会議室
出席者の氏名	川口 直也、池田 亜希子、河原 淑子、廣川 隆通、道口 泰己、木寺 元
欠席者の氏名	高橋 祐二、藤田 由紀子、萩本 眞一郎
説明者の職・氏名	—
議 題	(1) 第2期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗報告 (2) 新たな市民参加の手法について
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 資料 第4回所沢市自治基本条例推進委員会 参考資料1 第2期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総括表
担 当 部 課 名	経営企画部経営企画課 電話 04(2998)9027 経営企画部長 鈴木 哲也 経営企画部次長 柳田 晃芳 経営企画課 課長 小池 純一 主 査 稗田 真理子 主 任 友木 雄太 主 任 田中 綾華 主 任 林 真琴

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>開会后、市長よりあいさつを行ったのち、木寺委員長の進行により議事が進められた。</p> <p>（１）第２期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗報告 事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p> <p>ところざわサクラタウンでは毎週のようにイベントを行っている。１１月１８日、１９日に開催された武蔵野回廊文化祭には、市もブース出展し、缶バッジづくりを行った。また、１１月２５日には所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO（よっとこ）で、所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市で構成される埼玉県西部地域まちづくり協議会が今年度３５周年を迎えたことから、イベントを行った。時間のある時には、ところざわサクラタウンや YOT-TOKO（よっとこ）に寄っていただきたい。</p>
委員長	<p>自身も武蔵野回廊文化祭を見に行ったが、コスプレイヤーだけでなく、早稲田大学や専門学校も出店しており、色々な方が交流する素晴らしい空間であった。</p> <p>（２）若者の市民参加について ①U-29（ユニーク）な市民参加推進事業について、事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p>
委員長	<p>３０年後の姿に記載のあるバスとはどんな意図があったのか。</p>
事務局	<p>高齢者になると運転できなくなることもあるため、バスがあると街に出かけやすいことや、バスに乗ることで人とのつながりができるという意図がある。</p>
事務局	<p>本事業を設計する段階では、参加者数は２０名程度の想定であったが、倍以上の申し込みがあった。若者の市民参加を進めるなかで、試行的な取組であったが、若者への発信の仕方やテーマによっては、若者が参加したいと思うことがわかり、前向きな結果になったと思う。</p>
委員	<p>３０年後の姿に記載のある介護施設とはどんな意図があったのか。</p>
事務局	<p>安泰な老後を過ごせたり、福祉サービスの充実、家から直接施設</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>に行けるといいという意見がでていた。</p> <p>所沢市は介護施設が空いていない。場所によっては高額になることもあり、年金生活者や低所得者等にとっては、心配である。施設を増やしていくためには、人材や場所の確保も課題である。このあたりが解決していくと、所沢市に住み続けたいという方も増えていくのではないか。</p>
事務局	<p>11月26日に子どもをテーマにタウンミーティングを行った。タウンミーティングは市長の公約のひとつであり、次回は高齢者をテーマに行う予定である。タウンミーティングに参加し、発言することも、市民参加の一つであり、もしタイミング等あれば、是非参加していただきたい。</p>
委員	<p>姉妹都市、提携都市等で何か取組等は行っているのか。</p>
事務局	<p>姉妹都市ではないが、上田市と産業交流がある。上田市の雹被災りんごの販売支援を行ったことがきっかけで、更に交流が深まった。上田市のりんごを購入するかわりに、所沢市の新茶を上田市に買ってもらっている。</p>
副委員長	<p>ところざわサクラタウンで300万人来場したとの説明があったが、向かいにあるYOT-TOKO（よっとこ）にもそれなりの人が訪れていると思うので、YOT-TOKO（よっとこ）での一番の売れ筋が何か気になる。地元に住んでいて地元で愛着を持つにあたり、何か自慢できる特産品がお茶以外にあるのか知りたい。</p> <p>また、U-29（ユニーク）な市民参加推進事業について、若者を切り口にした取組は良いことであるが、PTAのあり方についても話あってもらいたい。新しく色々なことを活性化、定着化、参加型を求めるのであれば、改めてPTAがどういうものなのか、どういう風に活動して、どんな地域を目指すのか、自治会を巻き込むのか等、そういう話し合いもしてもらいたい。</p> <p>例えばサッカー、野球などは活動が活発になっているが、PTAとの違いは何なのか、そうした視点も大事と考える。</p>
事務局	<p>YOT-TOKO（よっとこ）での特産品としては、新商品として牛すじラードがある。その他、えびせん、所沢牛カレー、ニンジンジュース、醤油焼きそばのたれ、焼肉のたれなどがあげられる。</p> <p>副委員長の言う通り売れ筋ランキングなどがあると良い。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	牛すじラー油は YOT-TOKO（よっとこ）と西武学園医学技術専門学校がコラボして製作したものである。
委員	YOT-TOKO（よっとこ）については認識しているが、駐車場代がかかるイメージがあって行ったことはない。
事務局	30分無料で、商品を購入するとさらに30分無料となる。 5市の特産品が揃っているのは、YOT-TOKO（よっとこ）しかないのではないか。
委員	駐輪場代はかかるのか。
事務局	かからない。シェアサイクル利用については費用が生じる。
副委員長	所沢駅周辺に新しくショッピングモールができるが、アンテナショップ等はできるのか。
事務局	今のところ詳細は不明である。
委員長	特産品を一緒につくることも市民参加になる。
	②地域通貨導入について
委員	利用できる店舗数はどのくらいを想定しているのか。
事務局	1500店舗ほどである。令和2年に実施したプレミアム付商品券の時より多い数である。
事務局	地域通貨については、今後マイナンバーカードが対応することがあれば各自治体の標準装備になり得るものだが、現時点ではコスト面が課題である。また、一度始めるとやめられないため、持続可能な仕組みを構築する必要がある。地域通貨は市長の公約の一つであるが、拙速にやるのではなく、十分に研究すべきとの指示もでている。
副委員長	資料にある利用者から実施主体への決済はどんな時に使うのか。
事務局	将来像として、市への支払い（税の支払いや施設の使用料）を想定している。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
副委員長	<p>所沢市でしか使えないとなると、制約がついて価値が下がるという危惧がある。プレミアム付商品券のように、付加価値をつけないと事業としては進まないということか。</p>
事務局	<p>その通りである。そのためコストがかかってしまう。</p>
事務局	<p>地域でしか使えないというと、マイナスイメージにとらわれがちであるが、逆に地域に還元することができ、地域貢献にもつながるという仕組みでもある。</p>
委員	<p>学生だと都内でアルバイトしたり、県外に住む人もおり、地元ではあまり使わないと思う。また、地元で恩返しみたいな考えはあまり持っていないが、電子での支払いができるのは便利だと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>